

## 令和2年度 山村活性化支援交付金事業実施評価書

### 1. 事業名

山村活性化支援交付金事業

### 2. 事業実施主体名

小国町地域活性化協議会

### 3. 事業概要

#### ・事業目的

1990年に9,854人であった小国町の人口も、約7,000人と減少しており過疎化が深刻な状況となってきた。人口減少が進行し地域経済が縮小するなかにおいて、人材の育成は重要な要素であり、小国町内に限らず多方面から人材の招致を継続するとともに、地域に根差す人材の育成を図った。

また、地域住民において加工品製造を行うことのできる人材の掘り起こしを行った。加工品においては、生産者が自主的に新しい商品の開発や生産の増大に意欲的に参画し、持続可能な生産販売体制ができる仕組みを構築することを目的とした。

#### ・事業費・交付額(単位:円)

事業費 9,897,996円

交付額 9,897,996円

#### ・事業実施期間

令和2年4月10日から令和3年3月31日まで

### 4. 実績評価

#### (1) 目標の達成状況等の総合的評価

当該年度事業における事業目標として、①新商品の販売額、②加工製造販売の新たな雇用、③商品開発数の3項目を設定した。

①新商品の販売額においては、2,000千円を目標と設定するなかで、2,077千円の販売額となつた。

②加工製造販売の新たな雇用においては、3名の雇用を行い目標を達成した。

③商品開発数においても、6商品の開発に至り、目標を達成した。

以上の3項目の目標において、全ての目標を達成した状況である。

開発に至った新商品については、ふるさと納税の商品として新たに取り扱いを始めたほか、小国町が管理する農産物直売所において販売を行うなど、販路の拡大を図った。併せて、今後の加工製造販売の強化を図るにあたり、3名の雇用を行うとともに、新型コロナウィルス感染症拡大の状況を受け、本年度は自然環境を活用したアクティビティと食を連携させたプログラム等の発掘に係る研修会を開催するほか、地域の食文化を活かす加工の技術及びマーケティングと法的問題点の解決方法等の講座を開催した。

また、新たな商品開発については、3か年を通して小国町の「食」をテーマとして、継承及び発信していく人材の育成を目的とした食と交流の場を創出するほか、先進地への研修及び有識者を招聘した商品開発に向けた勉強会を開催。これにより、6商品の開発に至った。

#### (2) 取組状況

##### ・地域資源を活用するための合意形成、組織づくり、人材育成（地域活性化人材育成事業）

地域経済の浮揚において中核となる「人材」の育成が不可欠であるという観点、地方創生の動きや都市から田舎への農村回帰の傾向を踏まえ、地域おこしについて学び、新たな農村での暮らしを創造する機会の創出を目的として、計6回の研修会を実施した。

主な内容としては、自然環境を活用したアクティビティと食を連携させたプログラム等の発掘に係る研修会を開催するほか、地域の食文化を活かす加工の技術及びマーケティングと法的問題点の解決方法について研修会等を実施した。

なお、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、一部講師についてはオンラインにより依頼するほか、分散して開催するなどの対策を行った。

##### ・地域資源の消費拡大や販売促進、付加価値向上等を図る組織（商品開発及び生産販売促進事業）

小国町の地域資源を活用した加工品の試作及び検討を行い、新たに1商品を開発。

また、販路拡大及び新型コロナウィルス感染症増加による外出減少等の状況を鑑み、ネットショッピングサイトを構築した。

なお、新たな商品開発に向けた取組みとして、先進地視察及び有識者招聘による研修等を計画していたが、全国的な新型コロナウィルス感染症の拡大を受け、実施に至らなかった。

(3) 事業実績

小国町の食の土台を長年支え続けてきた地域住民団体等において、自発的に情報共有及び加工品製造を目的とした意見交換を行うほか、地域の食文化を活かす加工の技術及びマーケティングと法的問題点の解決方法についての研修会等に出席するなど、食を通して、山村活性化に向けた意識の向上が見受けられる。

(4) 実施体制

今後の自立的及び継続的な事業展開を背景として、新たな販路発掘及び情報収集を目的として、商談の機会を創出するなど、販売促進を図った。

また、自主事業として農産物集荷買取事業を実施。小国町内及び周辺地域における栗及び柚子等の新たな資源を把握することができたことから、今後加工品等の材料としての利用を検討する。

(5) その他事項

小国の食材や「食」に関わる人々との交流を通じて、自分たちの住む町の「宝」を再発見することを目的として、食と交流の場を創出。このことにより、小国町の「食」及び文化を再認識し、継承及び発信する人材の育成が図られた。

## 5. 事業実施結果

・目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
・新商品の販売額(千円)	2,000千円	2,077千円	104%
・加工製造販売の新たな雇用(名)	3人	3人	100%
・商品開発数	3	6	200%

(計測方法)販売額及び新規雇用、商品開発数により計上。

・所見

今後の方針として、注力する必要がある新たな販路発掘及び情報収集を目的として、商談の機会を積極的に創出するなど、販売促進を図る。

また、山村活性化対策が急務であるなか、販路の開拓のみならず、それらに付随する地域資源の生かし方やブランディング、生産及び品質、販売に関する体制や管理方法の確立、取引条件の設定など、課題解決力の向上を目的とする人材育成研修等を実施していく。

## 令和2年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

### 1. 事業評価の実施

令和2年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農山村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

### 2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			H30	R1	R		
熊本県	小国町	小国町地域活性化協議会	●	●	●	A	<p>事業目的達成のために、多彩で多様な方法を用い、参加者の興味と欲求を高める工夫を行つております。農産加工においてもプロの講師を招聘し技術力のアップに努め、地域資源である地熱を活用し新たなる商品を開発している。</p> <p>また、従来の商品パッケージをより高度化し消費行動を向上させるスキンも学習。それらを基盤に商品化と販売を行つている。販売額、雇用、商品開発数においても目標値を上回る成果をあげていることに対し及第点をつけたい。</p> <p>このほか、目的である地域経済を浮揚させ得る中核人材の育成及び新しい暮らしを創造する機会の創出を図つたことは大いに評価できる。</p> <p>今後は、この研修を通して、地域で稼ぐ力の向上を図ることで、人口減少を和らげるモチベーションとなることを期待する。</p>

- (注1) 「事業実施段階」の凡例： ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施)
- (注2) 「評価」の区分： A…優良 B…良好 C…低調

### 3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領の第9の1の(1)の規定に基づき、第三者である江藤 訓重 氏から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

**【第三者】**  
江藤 訓重

**【意見聴取の概要】**  
本事業で実施した研修会への参加及び開発した商品の確認のほか、令和2年度の実績報告書等により意見を聴取した。

## 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

		事業実施期間(令和2年度)			
1. 事業実施主体(評価者)	小国町地域活性化協議会	事業開始年度 平成30年度	目標年度 令和2年度		
2. 取組振興山村名	小国町				
3. 事業費(うち国費)	9,897,996円(9,897,996円)				
4. 第三者氏名	江藤 訓重				
5. 事業評価					
<b>総合評価</b>					
<p>(評価理由及び助言等のコメント)</p> <p>人口減少が進む小国町を含む地方の課題は、人口減少を和らげ、稼ぐ力を高め、人口減少に適応した地産地消に創造できるかある。今回の取り組みは、稼ぐ力を向上させることを目的として行ったものであり、①地域活性化人材育成事業として、地域資源を活用するために必要な合意形成、組織づくり、及び人材育成をベースに6回の研修会をそれぞれテーマを変えて実施したことでは、参加者の興味と意欲を引き出すには充分であったといえる。特にアクティビティ講座は、自然環境(登山)と食を繋げたことで、講座を続けるうえの連帯感の醸成にうまく作用した。</p> <p>商品開発及び生産販売促進事業においては、小国町の固有の地域資源である地熱と特産物である小国大根をユニットすることで、SDGsを意識した取り組みなどなっている。今後の商品化開発においても世界的な流れであるSDGsを意識することには重要である。</p> <p>販路拡大では、Withコロナに対する順応性の高さとして評価できる。</p>					
<p>○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。</p> <p>(①から④までを踏まえた総合的評価)</p>					
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C) 重点指導対象		
<p><b>① 取組状況</b></p> <p>○ 目標の達成に資するための取組が行われたか。</p>					
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C) 重点指導対象		
<p><b>② 事業実績</b></p> <p>○ 事業実施計画の目標は達成できているか。</p>					
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C) 重点指導対象		
<p>(評価理由及び助言等のコメント)</p> <p>コロナ禍という想定外のことにより見舞われたが、一部、実施計画に変更及び中止はあったものの、いつれの目標値も達成している。</p> <p>①地域活性化人材育成事業においては、特に3名の雇用が生まれたことは、今も音も変わらないテーマである。</p> <p>②商品開発及び生産販売促進事業においては、販売額及び商品開発効数において、いずれも目標値を越えており、特に商品開発は実績値が2倍となるほど優秀である。</p> <p>なお、商品のパッケージにより、どれほど効果が生み出されたかの検証は今後行う必要がある。新商品においては「地熱」や「ハッシュタグ」を意識したネットショッピングで表現するかにより、類似品との差別化を図ることを期待する。</p>					
<p><b>③ 実施体制</b></p> <p>○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。</p>					
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)		
<p><b>④ その他</b></p>					

## 学識経験者等第三者について

小国町地域活性化協議会

1. 第三者の氏名、住所  
① 氏名： 江藤 訓重

② 住所： 熊本県阿蘇市一の宮町宮地4607-1  
((公財)阿蘇地域振興デザインセンター)

3. 第三者の経歴  
①現在： (公財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長  
②主な歴史： 福岡県 星野村(現 八女市) 副村長  
高森町 任期付職員 観光まちづくり研究員  
③主な委員等： 熊本大学 非常勤講師  
熊本ツーリズムコンソーシアム 会長  
くまもと21ファンド 評議委員  
福岡県 ハ女市 観光開発事業委員会 副委員長  
国土交通省 地域振興アドバイザー  
くまもと未来づくりネットワーク 副会長

### 2. 第三者に選定した理由

国土交通省の地域振興アドバイザーを長年務め、全国各地の地域振興及び人材育成等に関わっており、これまで黒豚の生産法人の創設や女性料理グループの育成などに携わってきた。また、グリーンツーリズムによる農山村の活性化に早くから取り組み、グリーンツーリズムの全国大会にも参画するなど、熊本県におけるオピニオンリーダーとしての地位にある。そのほか、小国町出身であることから、小国の食材や加工品等にも精通しているばかりではなくネットワークも構築しているなど、総合的見地から選定した。

令和2年度 事業開始  
3年目

小国町地域活性化協議会

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

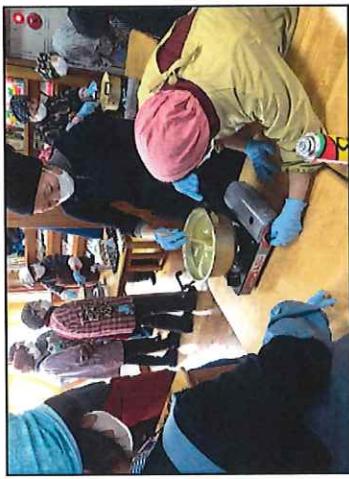
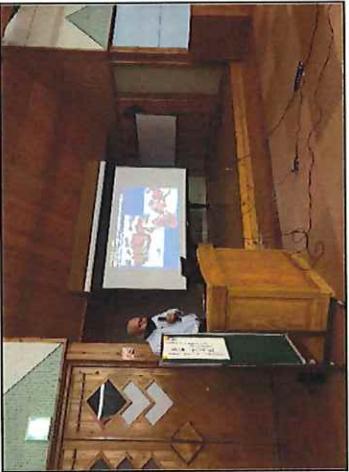
○事業の実施状況

(1) 地域資源を活用するための合意形成、組織づくり、人材育成（地域活性化人材育成事業）  
地域経済の浮揚において学び、新たな農村での暮らしを創造する機会の創出を目的として、計6回の研修会を実施した。  
主な内容としては、自然環境を活用したアクティビティと食を連携させたプログラム等の発掘に係る研修会を開催するほか、地域の食文化を活かす加工の技術及びマーケティングと法的問題点の解決方法について研修会等を実施した。  
なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部講師によりオンラインにて依頼するほか、分散して開催するなどの対策を行った。

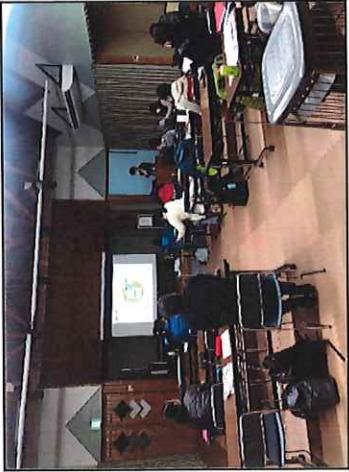
(アケティビティ講座)



(農産物加工講座)



(起業支援講座)



別紙2

(任意評価様式第3号)

令和2年度	事業開始 3年目
農山漁村振興交付金（山村活性化対策）	熊本県阿蘇郡小国町

小国町地域活性化協議会

○事業の実施状況

(2) 地域資源の消費拡大や販売促進、付加価値向上等を図る組織（商品開発及び生産販売促進事業）  
小国町の地域資源を活用した加工品の試作及び検討を行い、新たに1商品を開発。  
また、販路拡大及び新型コロナウイルス感染症増加による外出減少等の状況を鑑み、ネットショッピングサイトを構築した。  
なお、新たな商品開発に向けて取組みとして、先進地視察及び有識者招聘による研修等を計画している。  
症の拡大を受け、実施に至らなかつた。

(商品開発(切干大根))



(ネットショッピングサイト)



○今後の事業構想

今後の方針として、注力する必要がある新たな販路発掘及び情報収集を目的として、商談の機会を積極的に創出するなど、販売促進を図る。  
また、山村活性化対策が急務であるなか、販路の開拓のみならず、その間に付随する地域資源の生かし方やブランド化、生産及び品質、販売に関する体制や管理制度の確立、取引条件の設定など、課題解決力の向上を目的とする人材育成を実施していく。

別紙2

(任意評価様式第4号)

令和2年度	事業開始 3年目	熊本県阿蘇郡小国町
山の恵みマッチング2020への参加実績		

1 : 商品登録のみ	2 : 商談会参加	3 : 展示会参加
------------	-----------	-----------

- 1 : 山の恵みマッチングWEBサイトへの商品登録のみ実施した  
2 : 第1回商談会（R2.10.30、11.4）又は第2回商談会（R2.12.4）に参加した  
3 : 東京ピッゲサイトでの展示・商談会（R3.2.3～2.5）に参加した

- 対象商品、参加状況等  
開発商品への助言及び販路拡大を目的として、山の恵みマッチング2020に参加。  
開発した阿蘇小国豚餃子、阿蘇小国ジャーナムアイス、阿蘇あか牛のトマトカレーのほか、独自に開発した商品を登録。オンラインによる商談会に参加した。

○得られた課題や商談の成約状況等(成約や共同開発など販路拡大に繋がった場合は、可能な範囲で具体的・定量的に成果を記載すること)  
開発商品については、開発した阿蘇小国豚餃子、阿蘇小国ジャーナムアイス、阿蘇あか牛のトマトカレーのほか、独自に開発した商品を登録。オンラインによる商談会に参加した。

- (参加後の)取組への反映・フィードバック状況、今後の取組方針等  
助言等を踏まえ、時代の需に沿つた新たな商品開発を検討するとともに、販路拡大に向けた取組みを行っていく。